山とスポーツクライミング情報誌

登山月報

JMSCA 登山月報　第662号　令和６年５月15日発行

「丹沢表尾根から見た塔の岳、富士山」　表紙提供　神奈川県山岳連盟　広報委員長　小宮邦俊

No.662

リードジャパンカップ2024（LJC2024）…… 2
スピードジャパンカップ2024（SJC2024）
第４回スピードユース日本選手権多久大会（SYC2024）開催レポート
SKIMO　W-cup最終戦 …… 5
SKIMO　2024白馬八方バーティカルレース 2024年４月14日 …… 8
令和５年度積雪期登山基礎講習会報告 …… 9
寄贈図書 …… 9
Enjoy Climbing …… 10
三重県山岳・ＳＣ連盟 自然保護委員会のSDGsな活動 …… 11
第60回全日本登山大会新潟大会 …… 12
JMSCA、表紙のことば …… 12

リードジャパンカップ2024（LJC2024）
スピードジャパンカップ2024（SJC2024）
第4回スピードユース日本選手権多久大会（SYC2024）

開催レポート

大会実行委員長
百瀬恭平

リード種目、スピード種目の日本一を決めるLJC, SJCおよび スピード種目のユース世代大会であるSYCが佐賀県立多久高等学校内に建設された「九州クライミングベースSAGA」で開催されました。2週間前に開催されたボルダージャパンカップ（BJC）に続いての開催となり、会場は大いに盛り上がった2024年2月となりました。BJC、LJC、SJCのジャパンカップ3大会が同じ会場で開催されるのは史上初です。BJC同様に佐賀県とJMSCAの共催というかたちで開催されました。

【開催概要】

大会名	リードジャパンカップ2024（LJC2024）
期　日	2024年2月23日（金・祝）～24日（土）
会　場	九州クライミングベースSAGA
大会名	スピードジャパンカップ2024（SJC2024）
期　日	2024年2月25日（日）
会　場	九州クライミングベースSAGA
大会名	第4回スピードユース日本選手権多久大会（SYC2024）
期　日	2024年2月25日（日）
会　場	九州クライミングベースSAGA

リードジャパンカップ

［競技］

●男子

予選・準決勝と1位通過の小俣史温選手が決勝でも一手差で1位となりLJC2連覇を果たした。また地元、佐賀県山岳・スポーツクライミング連盟所属の樋口純裕選手が2位につけ入賞を果たした。

●女子

予選・準決勝と3本のルートすべてにおいて完登し、1位通過で決勝に挑んだ森秋彩選手が決勝でも圧倒的な強さを見せつけLJC5連覇を果たした。

［大会運営］

BJC同様に国内最高峰の大会の開催ということで、コンパクトな大会運営に配慮しつつ、ジャパンカップとしてのクオリティを如何に担保しバランスをとるかという点が引き続きのテーマとなりました。競技エリアに関しては国内最高レベルのクライミングウォールにより十分なクオリティで運営ができたと考えています。一方で

■男子リザルト（決勝）

順位	BIB	氏　名	所　属	高度
1	M019	小俣　史温	東京都山岳連盟	41+
2	M004	樋口　純裕	佐賀県山岳・スポーツクライミング連盟	40+
3	M057	百合草碧皇	早稲田大学	34+
4	M042	村下　善乙	法政大学	34+
5	M051	今泉　結太	茨城県山岳連盟	30+
6	M018	田中　修太	新潟県山岳協会	29+
7	M029	石津　元崇	山口県山岳・スポーツクライミング連盟	24
8	M053	西田　秀聖	天理大学	22

■女子リザルト（決勝）

順位	BIB	氏　名	所　属	高度
1	W025	森　秋彩	茨城県山岳連盟	46+
2	W034	小武　芽生	エスエスケイフーズ	42
3	W020	小田　菜摘	大阪府山岳連盟	41
4	W053	伊藤ふたば	デンソー岩手	40
5	W040	髙尾　知那	中京大学	39
6	W041	中村　真緒	日新火災	39
7	W046	美谷島ももか	日本大学	36+
8	W010	谷井　菜月	明治安田生命	35+

屋外のため、運営に必要な各エリアの雨天対策がやはり課題となりました。結果的に好天に恵まれ、大きな問題はなく大会を終えることができましたが、雨天・荒天時にどう対応していくかは次回以降にも検討が必要な課題と考えています。

今大会では、BJC時に要望の多かった予選のYouTube配信にもチャレンジしました。これまでとは異なるスキームで、多くのボランティアの協力を得ながらの取り組みとなりましたが、一定以上の品質で配信をすることができ、会場に来場できなかった多くの方にも会場の感動を共有できたのではと考えています。

LJC小俣史温選手
Photo - Ryo Kubota/JMSCA/アフロ

LJC森秋彩選手
Photo - Ryo Kubota/JMSCA/アフロ

スピードジャパンカップ

［競技］

●男子

予選４位通過の三田歩夢選手、14位通過の安川潤選手が決勝の各ステージを順調に勝ち上がり、ビッグファイナルに駒を進めた。ともに国際大会でも活躍する選手同士の戦いで、見ごたえのあるカードとなった。Bレーンを登った安川選手が5.53のタイムで優勝、SJC2連覇となった。

●女子

決勝ビッグファイナルは竹内亜衣選手（予選２位通過）と金谷春佳選手（予選５位通過）の対決となった。竹内選手がビッグファイナルでも安定的に7.87のタイムを出し戦いを制し、初優勝を飾った。

■男子リザルト（決勝）

順位	BIB	氏　名	所　属	1/8決勝	1/4決勝	1/2決勝	3位決定	決勝
1	M022	安川　潤	早稲田大学	5.34	5.49	5.47		5.53
2	M018	三田　歩夢	千葉県山岳・スポーツクライミング協会	6.01	5.74	5.74		8.79
3	M013	上柿　銀大	岩手県山岳・スポーツクライミング協会	5.92	5.78	7.69	WC	
4	M024	大西　月華	神奈川県山岳連盟	7.69	7.55	FALL	F.S	
5	M007	藤野　柊斗	東洋大学	5.75	6.07			
6	M017	竹中　翔	岐阜県山岳連盟	5.86	5.8			
7	M021	阿部　央彦	愛媛県山岳・スポーツクライミング連盟	5.94	9.02			
8	M008	真鍋　竜	愛媛県山岳・スポーツクライミング連盟	6.52	6.25			

■女子リザルト（決勝）

順位	BIB	氏　名	所　属		1/4決勝	1/2決勝	3位決定	決勝
1	W013	竹内　亜衣	千葉市立千葉高等学校		8.60	7.98		7.87
2	W012	金谷　春佳	鳥取県山岳・スポーツクライミング協会		8.47	9.35		8.60
3	W008	林　かりん	鳥取県山岳・スポーツクライミング協会		8.21	10.51	7.68	
4	W007	河上　史佳	鳥取県山岳・スポーツクライミング協会		8.43	8.17	15.19	
5	W009	小屋松　恋	横浜隼人高等学校		8.66			
6	W002	林　奈津美	奈良県山岳連盟		10.98			
7	W003	川村　鞠采	岩手県山岳・スポーツクライミング協会		12.55			
8	W004	麦島　心花	愛知県山岳・スポーツクライミング連盟		9.30			

SJC男子入賞選手
Photo - Ryo Kubota/JMSCA/アフロ

SJC女子入賞選手
Photo - Ryo Kubota/JMSCA/アフロ

スピードユース日本選手権

［競技］

４回目となる大会開催。例年通り、SJCに先立ち同日の午前中に開催された。いずれのカテゴリにおいてもSJCに見劣りしないハイレベルな戦いが繰り広げられ、ますます選手層が厚くなってきているのを感じさせる大会となった。第１回大会の開催以来、徐々に参加選手数も増えており、スケジュール的にも過密になってきていることから将来的には独立した日程での開催を検討していきたい。

※紙面の都合上、SYCのリザルトは大会特設サイトよりご確認ください。

https://www.jma-climbing.org/competition/2024/sjc/

SYC女子ジュニア入賞選手
Photo - Ryo Kubota/JMSCA/アフロ

SYC女子ユースA入賞選手
Photo - Ryo Kubota/JMSCA/アフロ

【LJC / SJC / SYCを通して】

佐賀県山岳・スポーツクライミング連盟　会長　**宮原　敏明**

前回のBJCに続き、佐賀県多久市でリードジャパンカップ2024が開催できたことは、国民スポーツ大会を控える佐賀県にとっても大きな収穫となりました。

BJCと同様、今回のLJCを開催したことで、仮設テントの位置、選手の動線、紙上ではわからなかった問題点があげられ、これらも我々連盟だけでなく、国スポを運営する多久市実行委員会の皆様と検証でき、6月に開催されるリハーサル大会にむけ、しっかり準備していきたいと思っています。

リード施設の概要ですが、高さ15m、幅12mで約20本の課題を作ることができます。迫出し幅が11mあるので、ルートによっては長さも伸び、より持久力が必要になります。佐賀県から樋口純裕、中上太斗、通谷律、中村太河、通谷結太の男子5人、大河内芹香、樋口結花、梶絢香の女子3人が出場しました。男子は、樋口純裕が予選6位、準決勝6位、決勝2位と樋口らしい登りで持っている力を十分に発揮してくれました。中上太斗も予選25位でしたが、準決勝では持ち前の粘りで順位を上げ、13位となりました。女子は、樋口結花が彼女らしい堅実な登りで予選22位、準決勝も懸命に頑張っていたが25位でした。この8人もLJCに出場したことを糧にしてしっかり準備していくことで、それらが国民スポーツ大会につながっていくと信じています。

また、スピードジャパンカップ2024と同時に開催された4回スピードユース日本選手権多久大会を開催できたことは、国民スポーツ大会にはなく、オリンピックに採用されている種目でありましたので、県民の目にはめずらしく、大いに盛り上がっていました。今まで施設そのものがなかったので、近いところでは福岡県に行って練習していたので、それほど選手が育っていませんでした。その中でユース日本選手権に大杉金剛が出場し、予選8位で決勝に進みました。また、SJCにも出場しました。

これら3つのジャパンカップが佐賀県で開催できたことは、国民スポーツ大会を控える身として非常に価値あるものと感じました。佐賀県内だけでなく多くの方々のこの施設をお知らせし、この施設を活かして、しっかりとした選手育成に心がけ、ゆくゆくはオリンピックに出場する選手を育てていきたいと考えています。

SKIMO

W-cup最終戦

場　　所：イタリア Cortina d'Ampezzo
遠征日程：４月２日～４月11日
報 告 者：JMSCA SKIMOコーチ 松澤幸靖

４月に入りコルチナで23-24シーズン最後となるW-cupに島徳太郎・遠藤健太・小寺教夫・田中友理恵・滝澤空良・上田絢加・臼井夏海・池田美貴の８名が参戦した。2026年にはこのコルチナを主たる会場として冬季オリンピックが開催されるが、SKIMO競技はBORMIOという約300km離れた別のスキーリゾートで行われる。今回コルチナオリンピックでメイン地域となるCortina d'Ampezzoには、今季W-cupとして最も多い26カ国が参加する大会となった。

レースのベースとなる会場は標高約2000mで、自転車レースでも有名なGiro de Italiaでよく使われるファルツァレゴ峠を中心としたエリア。

それぞれの種目は峠を中心にレイアウトされていた。

日本チームは４月２日に日本を発ち、３日から現地に入り、すでにヨーロッパに入っている選手と合流し、５日までの３日間標高2000m付近で調整を行なった。

今回のコルチナでは４種目が行われた。

■４月６日　VERTICAL　距離2.6km登り680mD+

登り勾配は先月のオーストリアのバーティカルよりも80m標高差があり、徐々に急になっていくのだが、後半に最も急な登りが多く、選手はゴール付近ではかなり苦しい様子が伺えた。

トップは男子ではBonnet Rémi選手が２位に30秒以上の差をつけて優勝した。スイスチームは10位までに５人が入る。あとはオーストリアが３人、フランスが２人。

日本のトップは男子が島選手の45位でトップから５分52秒差の29分58秒、遠藤選手56位32分49秒、小寺選手62位35分43秒と続く。

女子のトップはフランスのGachet Mollaret Axelle選手が２位に１分24秒差をつけて優勝。日本選手では臼井夏海がトップから６分46秒差の34:21:96で22位となった。臼井は今季思うように結果を出すことができずにいたが、得意のVerticalで活躍できたことは、来季に向けて励みになったはずだ。田中友理恵は臼井から２分遅れ26位、上田絢加が田中に続き27位、滝澤空良は30位、池田美貴は37位となった。

■４月７日　INDIVIDUAL　距離13.0km登り1400mD+
Individual 小寺45位・池田27位

気温が上がり、とても暑い中でのレースとなった。

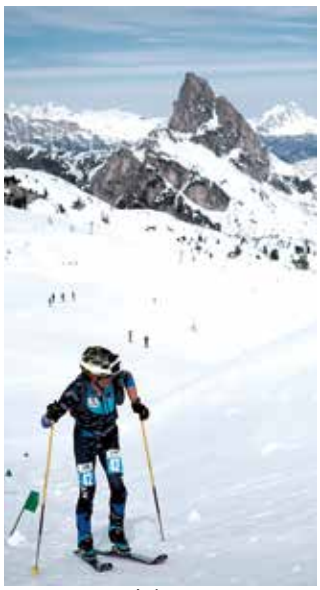
このレースも男子では昨日のVerticalに続いてBonnet Rémi選手が１位となった。登りでは誰よりもピッチが早く、かと言ってストライドが小さいわけでもない。他の選手がなかなか真似をすることのできない能力を兼ね備えた選手である。

２位にはイタリアのMagnini Davide選手が続いた。

海外で行われるIndividualレースは、ゲレンデ外のコースの難易度が日本よりも圧倒的に高い場合が多い。地形を伴った斜面への対応、場所によって変わる雪質への対応などは実際にIndividualに出場し得られることは多い。最もSKIMOらしいこの種目は伝統あるレースも多く、Cortina d'Ampezzoのレース自体それほど歴史はないようであるが、夏のトレッキングコースで使用している尾根の下を50mほど抜けるトンネルを使用するなど、普段経験することのないようなユニークなコース設定で選

Verticalでの臼井夏海

Individualトップ選手


Individualでの小寺

Individualのトンネル内

Individual小寺と池田

手を戸惑わせていた。

また、温暖化など、これからの気象条件下での傾向として、Individualなど今後特に長いコース設定が必要な種目は、短めのコースを２周するなどの工夫が必要になっていくと思われる。今回のコルチナも6.5kmのコースを２周するなど、スタッフも効率よく使った運営がなされていた。

2026年後の2030年に向けては、Individualも種目にしたいという話はISMF内部では多く聞かれる意見であり、この種目をオリンピック種目とするための試行錯誤も始まっているように思われる。

今回Individual種目に日本チームから出場したのは小寺教夫選手と池田美貴選手だけであったが、それぞれに良い経験になったと思う。

■４月９日　SPRINT　距離746m 標高差70m

コルチナのSprintコースは今季のSprintコースの中では上りは単調で、ジグザグにダイヤモンド形状に登るエリアは規定通りあるものの、ほぼ一直線に登るレイアウトになっていた。滑りに関してはジャンプ台を作るのはもう当たり前のようになっている。トップ選手が約３分でフィニッシュとなるSprint競技で差をつけるためには、コース作りとしていかに滑りの難易度を上げ、複雑に仕上げていくかという点で、ある時はウェーブの中を滑らせ、今回のようにジャンプを高くするなど今後は多くなるだろう。今回は比較的大きめなジャンプ台が作られており、見えない方向に飛んでターン処理を行うなど滑走技術面での競い合いも増えると思われる。

Sprint島

Sprint島

予選では男子の島 徳太郎が30位に入り６人での出走となる準々決勝に進む事ができ、全体では28位となった。女子では田中友理恵があと0.5秒早ければ準々決勝に進めるところで一歩及ばす残念ではあったが、次への課題を見つけることはできている。特に今回は最終戦でもあるので、Sprintの予選結果について、来季には最大のライバルとなる中国との比較をしておきたい。女子では４人が日本のトップである田中友理恵よりも早いタイムを出しており、男子では１人が島徳太郎より上位にいる。年齢的にも中国の選手は男女ともに20～23才の選手が多く、日本の選手よりも若い選手が多いというのが現状である。来季に向けて、選手とも現地でミーティングを行なったが、競技の中で最後まで動き続けられる体力のベースを作ること、そして滑りの技術や経験値をもっと上げていかなければならないことは選手も強化スタッフも感じており、チーム全体のレベルアップはもちろん、さらに的を縛った強化をすることも重要となる。

●予選結果（女子）　※主に中国選手との比較

１位	3:24:21	Harrop Emily（フランス）
17位	3:46:75	Yuzhenlamu（中国）
26位	3:54:30	Suolangquzhen（中国）
28位	3:59:31	Mao shengmei（中国）
29位	3:59:55	Ji Lulu（中国）
31位	4:00:11	田中友理恵（日本）
36位	4:14:86	上田絢加（日本）
37位	4:16:53	滝澤空良（日本）
44位	4:47:48	臼井夏海（日本）
45位	5:12:56	池田美貴（日本）

●予選結果（男子）　※主に中国選手との比較

１位	2:47:51	Lietha Arno（スイス）
18位	2:56:44	Zhang Chenghao（中国）
30位	2:59:38	島徳太郎（日本）
36位	3:03:14	TuohetaerailiYisimaer（中国）

48位　3:12:52　Li Wenjun（中国）

■4月10日　Mixed Relay　距離1.47km 標高差150m

各国から38チームが参戦。

この日は朝から天候が崩れ気味で雨模様。

出発して標高が上がるにつれ雨も次第に霙へと変わり始めた。

心配していたような雨降りではなくなり良かった。

Mixed Relayでは2月のイタリアでのW-cupではトップ12チームで争われるA決勝に残ることができなかった為、今回の最終戦ではA決勝に残ることが目標となった。そのためにはやはりトランジットでのミスをいかに減らしていくかは大切で、今季から海外コーチとして協力いただいているスペイン人のPepコーチも、焦らず「確実にできる範囲でスピードを上げること！」を、トレーニングの中で選手に伝えていた。

●予選タイム（女子）

1位　8:51:64　Harrop Emily（フランス）
16位　9:58:81　Yuzienlamu（中国）20才
17位　10:05:15　Suolanquzhen（中国）21才
18位　10:14:30　Mao Shengmei（中国）20才
19位　10:18:52　田中友理恵（日本）34才
25位　10:44:56　JiLulu（中国）23才
27位　11:00:59　滝澤空良（日本）
29位　11:06:68　臼井夏海（日本）

●予選タイム（男子）

1位　7:57:26　Galindo Robin（フランス）
14位　8:42:97　島　徳太郎（日本）25才
21位　9:12:66　Zhang Chenhao（中国）22才
23位　9:14:94　Tuohetaeraili yisimaer（中国）23才
27位　9:27:89　Liu Jianbin（中国）22才
28位　9:29:23　Li Wenjun（中国）23才
32位　10:18:24　遠藤健太（日本）30才
35位　11:48:85　小寺教夫（日本）45才

予選でA決勝に残れたのは島 徳太郎と田中友理恵のペア。13位～24位までのペアで戦うファイナルBには日本チームは残ることができなかった。島と田中のチームは今回が一番今までよりも全てにおいて大きな失敗もなくレースを進めることができていた。中国チームに一旦は先に行かれるも、トランジットで詰めながら巻き返すという流れで、最終的には30秒近く引き離すことができた。

ファイナルAでのハンドオーバーゾーン付近では残った選手が島・田中選手の次までの準備を手伝うなど、サポートしチーム力もここでは発揮できていたと思う。Cortina d'Ampezzoでは多くの課題も見つけると同時に、良い結果を残すことができた。

A決勝10位の島・田中

そして、今回勝つことはできたが、中国チームは、ファイナルAに1チーム、ファイナルBに2チームを残すことが出来ていた。

Sprintの結果とMixed Relayの結果、さらに年齢を見ると中国のジュニア育成がうまく行っており、チームの厚みが年々増していることは明らかであり、今回は日本チームとして結果を残すことが出来た喜びもあるが、それ以上に、選手とコーチがそれぞれに今後への課題と、来季に向けて新たな緊張感を持ち帰ることができたように思う。

最後に、この一年を様々な方面から支援していただいたJMSCAの関係の皆様、多くのサポートをしてくださった企業の皆様、そして日頃より暖かい応援をいただいている選手のご家族の皆様に感謝いたします。

そして引き続きのご支援をいただきますようお願い申し上げます。

開会セレモニーにて

SKIMO　2024白馬八方バーティカルレース 2024年4月14日

去る４月14日、４月とは思えない汗ばむような陽気の下、長野オリンピックのアルペンスキー競技会場にもなった白馬八方尾根にて2024白馬八方バーティカルレースが開催された。このレースは来季の強化指定選手の代表選考レースにも位置づけられ、ローカルレースでは有るがトップ選手にとっては大事な選考レースのひとつで有る。

スキーと言えば、上から下に向かって滑るというのが、おおよそ一般の方のイメージするところではあるが、このバーティカルレースとは下から上に向かってスキーにスキンという滑り止めを付けて、ただひたすら登るのみというスキーレースで有る。本場ヨーロッパでは、終末ごとにどこかしらで、さながら市民マラソンのような頻度で行われている馴染みの深い競技である。日本でも本大会は10回を数え、この時期の白馬八方の風物詩として定着してきた行事である。

当日はイタリア・コルチナダンペッツオでのワールドカップを終えたばかりの強化選手４名に加え、若いジュニア世代から、最高齢は69歳までの選手が標高差780ｍ、約2.7㎞のコースでタイムを競った。

レースは八方尾根スキー場のウスバゲレンデレストハウス前をスタートし、ゴールはスキー場のリフトアクセス出来る最高点、標高1835ｍの八方池山荘横がゴールである。スキー場内を滑走するお客様の横を決められたコースに沿って登ることもあり、スキー場を登ってくる選手をもの珍しく見る方もいる一方で、10年ほどの間に認知度も広まり、滑走を止めて選手に熱い声援を送ってくれる方もいる。SKIMOという競技がオリンピックの正式競技になる前から、白馬地域にて地道に大会を開催してきた成果が着実に実を結びつつあるのは主催者としても大変嬉しい事である。

さてレース当日は９時30分のスタート時には既に気温も上がり、コース内は日射によって雪面も緩み、多少スリップしやすいテクニカルなコンディションになった。

男子はスタートからワールドカップから帰国したばかりの強化選手・小寺教夫が飛び出し、後続が追うという展開に。小寺はベテランらしいレース運びで着実にレースを進め、帰国間際の時差ボケをものともせず、そのままトップでゴールした。２位には前年度までの強化選手でもあった松本良介が１分差入り、３位には松本と約30秒差で北海道から参戦の一橋聖也が入った。

女子もこれまたワールドカップから帰国したばかりで、コルチナワールドカップ最終戦のバーティカル種目で日本人最高位の22位に入った臼井夏海が好調を維持し、男子を含めても３番手の好タイムで２位の滝澤空良に約２分差をつける完勝。３位には経験は浅いものの成長めざましい青木聖美が粘り強いレースをし表彰台を掴んだ。

ジュニア男子は地元白馬出身の笹川勇太、ジュニア女子は山梨の田邉美藍のともに強化選手の二人が１位となった。

この大会は年代を問わず比較的参加しやすい大会として認知され、多くの一般のスキーヤーの目にも触れる機会の有る数少ない大会として、さらにはSKIMOの普及という意味でも大事に育てて行きたい大会である。

（SKIMO理事・主催者　平田伸也）

男子１位　小寺教夫

女子１位　臼井夏海

スタート直後の様子

令和5年度積雪期登山基礎講習会報告

令和6年2月2日（金）～4日（日）　国立登山研修所

那須の雪崩事故教訓から始まった積雪期登山基礎講習会、講習会の中でも２番目に募集が多く、今回も定員の２倍の募集があったそうです。今回の参加者の特徴としては、コロナ禍が緩み山に多くの人が多く戻ってきた影響もあるのか？救助や初期対応などに携わる方が多く、警察・消防関係11名、大学山岳部関係６名、高等学校関係３名、岳連関係１名、登山案内業関係３名の計24名で開催されました。

班別けでも、積雪期登山技術を生かす職業・指導引率の立場・グループリーダー立場・山の魅力を案内する方々などに班分けし、この三日間で何を持ち帰ってもらうのがベストなのかを講師の判断に任せ実技講習内容となりました。

初日は立山カルデラ砂防博物館の飯田肇学芸課長から積雪の仕組み、そしてどのような状況で雪の層が出来ていくか学び、実際に弱層テストも行い“雪を知る”ことが安全管理につながる事を実感しておりました。

二日目は大品山に向け、あわすのスキー場上部にＢＣを設営、そして1229ピークまで登り雪上歩行・雪を見極めルート選定、ピッケルアイゼンの基礎を講師から学び、危急時対応では雪洞の構築も行い、特に２名の方はＢＣ内で一夜の雪洞ビバークも体験し、数名の方も数時間の雪洞ビバーグを体験し、テント幕営した方も含め雪山での生活技術を多く学んでくれたと思います。

三日目は天候にも恵まれ全員が大品山へのアタック、ＢＣから撤収時には雪上搬送などの実技講習する班もあり、雪崩サーチ実技も含め非常に内容の濃い講習会となりました。

積雪基礎講習会の大きなテーマでもある“雪に親しむ”をコンセプトに“雪を知る”雪を学ぶ“ことが、すべての雪山行動の基本であることを認識したと思います。

参加者の皆さんのが、この経験を活かしきっと役に立つ時が来ることを願います。

（指導委員会　本郷利夫）

寄贈図書

文部科学省総合教育政策局 教育人材政策課	「アスリート出身者の教師としての入職に関する事例集」	情報誌
(株) 日本運動具新報社	「スポーツ産業新報」第2429号	新聞
(株) 世界思想社教学社	2024 春「世界思想」51号 特集スポーツ	会報
(公財) 健康・体力づくり事業財団	「健康づくり」No.552	会報
(公財) ヤマハ発動機スポーツ振興財団	2023年度「障害者スポーツ調査研究報告書」	情報誌
(株) エイアンドエフ	「A＆F COUNTRY 2024」	情報誌
日本ヒマラヤ協会	「HIMALAYA」No.508	情報誌
兵庫県山岳連盟	「兵庫山岳」第662号	会報
長野県庁	「令和６年 登山 Safety Book」	情報誌
(株) 山と渓谷社	「改訂版九州百名山地図帳」,「帰ってきた避難小屋」	寄贈本
岐阜県北アルプス山岳遭難対策協議会	「山岳白書」	会報
(独法) 日本スポーツ振興センター国立登山研修所	「登山研修」VOL.39-2024	会報
(株) 日本運動具新報社	「スポーツ産業新報」第2430号、No.2431	新聞
(株) 山と渓谷社	「山と渓谷」2024年５月号	寄贈本
(株) ネイチュアエンタープライズ	「岳人」2024May No.923	寄贈本
市立大町山岳博物館	「市立大町山岳博物館 研究紀要」第９号	会報
(公財) プラン・インターナショナル・ジャパン	「PLAN NEWS」(2024Spring No.125)	会報
(公財) 埼玉県スポーツ協会	「スポーツ埼玉 Sports」2024春号 Vol.302	会報
(公社) 日本武術太極拳連盟	「武術太極拳」No.410	会報
(株) 文藝春秋	「Sports Graphic Number」1094・1095	情報誌
国立スポーツ科学センター	「JHPS」冊子	情報誌
明治大学山岳部　炉辺会	「炉辺通信」No.204	会報
東京都山岳連盟所属・玲峰グループ	玲峰グループ2023年・年会誌	会報
(公財) 大崎企業スポーツ事業研究助成財団	「企業スポーツ」2024 spring	会報
おいらく山岳会編集	「山行手帖」No.773.'24. 5	会報
東京野歩路会	「山嶺」Vol.101 No.1130	会報
東京都岳連 三峰山岳会	「岩つばめ」No.373	会報
(公社) 日本山岳会	「山」2024年（令和６年）４月号 No.947	会報

Enjoy Climbing

佐藤　裕介

2022ユタツアー中編（開拓編）

当初、秋のユタツアーの主目的は、北平さんとの世界最難ワイド（センチュリークラック）へのトライであったが、夏前から私は路線変更。現在の私の志向に沿った開拓クライミングを一番の目的としてユタを訪れることになった。センチュリークラックを少しだけ触れてスタートしたユタのクライミング。当地で断トツに有名なインディアンクリークにも久々に訪れてジャミング三昧の日々を楽しんだ後、私はパートナーの坂本と共にとある開拓エリアに向った。数年前から友人のジャンボ達が開拓しているエリアである。

ユタ全域では砂岩がメインの岩質となっており、センチュリークラックのあるエリアもインディアンクリークも砂岩。国道を車で走っているだけで、赤茶けた岩とそこに走るクラックを見つけることが出来る。「どこでもクラック登り放題じゃん！」と多くのクライマーは思うのだが、手頃なアプローチなのに登られていない岩には理由がある。残念ながらその多くはクライミングするには脆すぎる場合が少なくないのだ。

今回訪れた「とあるエリア」は、悪路のダートの先に広がっており手頃なエリアとは言い難いけど、ほとんど手付かずのクラックが僕らを待っていた。谷には岩壁が何個も奥に続いているのだが、僕らは第３バットレスと勝手に名づけた岩壁に狙いを定めた。

第３バットレスの左端には独立した岩峰状になったピークがあり、まずは目立っているあのピーク目指して登ってみようと、弱点となりそうな左のクラックに取り付いた。１Ｐ目は特に初めの10ｍほどは脆い箇所が多くリードの坂本は慎重にロープを伸ばした。２Ｐ目5.11－程のテクニカルな小ハングを越えてピッチを切る。コーナーに続く快適なクラックを登ると安定したテラスとなり今日はここまで。ピークまではあと１～２ピッチありそうだ。別のクラックラインから下降。明日はこのラインを登ってからピークを目指そう。

開拓２日目。トップだった私は欲張って70ｍ一気に伸ばして大テラスまで。通常は途中でピッチを切った方が快適だ。中間上部のワイドが悪くかなり危うかった。当然ながら後半はロープが滅法重いが大テラスで充実感に浸りながらビレイした。坂本がハンドクラック中心の快適な35ｍを進み昨日下降点を作った台地へ到着。

３ピッチ目はプロテクションが限られ緊張するチムニー。ランナウトにかなり痺れてしまった。６番が開き気味にしか効かず、７番を初めて欲しいと思った。普段登っている瑞牆周辺のクラックでは悪い７番サイズが長く続くラインは余りなく、今まで７番カムなんて不要と思っていたけれど、砂岩のクラックは同様の幅のクラックがずっと続くのが特徴だ。次回の再訪するツアーでは何としてでも７番を手に入れたいものだ。

次のピッチを坂本が20ｍ登るとピーク付近だった。本当のピークまで私がロープを10ｍほど伸ばして天辺に立つ。やはりピークで終了って最高だ。坂本とハイタッチしてピークを後にする。ボロボロのスリングが落ちていて既にピークは登られていることが判明。この周辺の岩壁も完全手つかずと言う訳ではなく目立ったピークにはだいぶ昔に弱点から登られているようだ。このスリングの様子からは30年ほど経っていそうに思えた。下降ラインにも懸垂用の支点を一つ見つける。明日は別のクラックを登るべく隣の大チムニーから下降。危険すぎる浮石を落としながらの下降となった。クラック上の浮石の様子から流石にこのラインは登って無さそうである。

暗くなってきた頃に地上に降りキャンプ地に戻った。今夜も焚火を囲み、今日のクライミングを語りながらシンプルな食事と酒で夜は更けていく。明日のクライミングも楽しみである。

＊

カム：カムデバイスの略。クラッククライミングのプロテクションとして使用する。７番カム：ここではカムの中で最も普及しているＣ４キャメロットの７番サイズの事を指している。16～22㎝のクラックに対応する大型カム。

とある開拓エリア

第３バットレス

三重県山岳・SC連盟 自然保護委員会のSDGsな活動

どこの県においても同じかと思われるが、三重県の山岳環境は温暖化による様々な影響、公共あるいは企業による直接的破壊（特にメガソーラー建設によるものが顕著）、登山者のオーバーユース、盗掘等による希少種の激減等々と、山を続けてたかだか数十年でさえその変化の激しいことこのうえない。温暖化や公共事業など、大きすぎて抗えないものについてはせめてその変遷を見届け、記憶、語り続けることしか出来ないのかもしれないが、せめて個々の力で対応しうる物事に関しては何かしら山の力になりたいとおこがましくも思っている。

活動は例年春秋２回の企画山行（内容は様々）、10-11月の自然保護月間と称した各山岳会による例会での清掃登山、会員個々による日ごろの啓発活動など。他にも連盟主催での主に初心者（特に連盟会員外）を対象とした「山登りベーシック塾」なる講習会において、自然保護に関する講義も行っている。ＳＮＳ全盛の昨今、このような啓発活動は、安易な情報発信を抑制して希少植物の盗掘を防止するために絶対的に必要であると思う。

具体的活動として例をあげると、ここ数年は鈴鹿山系某所における外来駆除を継続して行っている。100％根絶は難しいが、年々数が減っていると実感し、やりがいも感じる。山野草図鑑著者との共同作業ゆえ、色々な知識を教えて頂くのも楽しい。

他にも地域の自然をより深く理解するための取り組みとして、炭焼き体験も実施した。我々の主なフィールドの一つ鈴鹿山脈、現在の植生は植林を除いた自然林のほとんどが炭焼きによって伐採されたのちに復活した二次林である。手入れされずに茂った里山整備も兼ねて先人の知恵に学び、自然の恩恵を受ける、流行りの言葉をあてるならSDGsである。

SDGsという言葉を聞くようになって久しいが、自然の中で汗水たらして体を動かしているとイマイチしっくりこないと言うか、ファッションの一部としてこの言葉を使ってやしないかと感じる。話題性もいいが、やっていることは以前から変わらぬ泥臭い活動である。地に足をつけ、地道に、時に鋭く、山の自然と関わっていきたい。もしも山が悲鳴をあげているのなら、我々登山者こそが一番の理解者であり、山の代弁者でありたいと願う。世の中へのアピールや理解が必要な時にこそ、この便利な言葉を使おうと思う。

㈳三重県山岳・ＳＣ連盟　自然保護委員長　水谷一也

増えすぎた鹿による食害、裸地化

炭焼き窯 火入れ

シルクのようにさっくりと切れる、断面が美しい

第60回全日本登山大会新潟大会

おもてなしの心でお待ちしています

令和６（2024）年９月21日（土）～23日（月）の３日間で、第60回全日本登山大会新潟大会を新潟県湯沢町の山々で開催いたします。すでに各岳連には要項が冊子とデータで送られていますので、目にされている方もいらっしゃると思います。

今回設定したコースは

Aコース 苗場山（体力３、技術B）
Bコース 平標山（体力３、技術B）
Cコース 三国山（体力２、技術A）
Dコース 大峰山（体力１、技術A）

の４コースで、ご自分に応じた体力と技術のコースを選ぶことができます。

どのコースも魅力たっぷりの素晴らしいコースとなっています。

今回の登山大会では山を楽しんでいただくのはもちろん、新潟の食、酒、温泉もご堪能いただきたいと考えています。

宿舎について

今回はＮＡＳＰＡニューオオタニに２泊していただきます。ホテルについては、新潟の良さをたっぷり味わってもらうということを最優先で選定いたしました。

入浴では美人の湯としても知られる250坪の天然温泉の大浴場が登山で疲れた体を癒やしてくれます。また浴室からは雄大な自然も楽しむことができます。

料理については定評のあるＮＡＳＰＡですが、さらに私たちが実際に足を運び、当日提供される料理を食し、皆様に楽しんでいただける料理であることを確認いたしております。また、当然、お酒は新潟の地酒をご用意しております。酒処新潟の淡麗辛口の美酒をご堪能いただけると思います。

さて、今回は60回ということで記念すべき大会になります。例年、次の年の開催県が決まっており、次年度担当の県は下見という形で前年度の大会に参加をすることが多いですが、来年度の開催県はまだ決まっていないようで、これまでの流れとは異なるようです。ひょっとしたらこの大会が全日本登山大会ターニングポイントになる大会となるかもしれないと感じています。これまで多くの大会に参加してこられた皆様、そして今まで参加されなかった全国の皆様からご参加いただき、思い出に残る大会にしなければならないと考えています。お誘い合わせの上、多数の岳人の皆様にご参加いただきますようお願い申し上げます。

申込について

申込期間は令和６年６月３日（月）～７月24日（水）となっております。各都道府県ごとにとりまとめて申込をいただく形になりますので、各都道府県山岳連盟（協会）にお問い合わせください。

草原を思わせる稜線の平標山（背後は苗場山）

弥彦、赤城、諏訪の三明神を合祀したと伝えられる三国峠御坂三社神社
三明神の御利益が期待できるかも…

JMSCA

令和５年度 第16回
ハイブリッド理事会報告

○**日　時**：令和６年３月５日（火）
16：00－19：00
○**場　所**：JSOSビル３Ｆ会議室３と
Webのハイブリッド会議
○**出席者**：蛭田・飛松・吉田・各副会長、古賀・赤尾・町田・望月・安井・栗田常務理事、佐藤・前田・野村・小高・中橋・山口・島田・西谷・畑中・樋口・中島・小田部各理事以上21名、山本副会長、小日向・水村理事３名（途中退席）、古屋、佐久間各監事以上２名
○**欠　席**：丸会長、小野寺専務理事、濱田常務理事、平田・杉本理事
○**同席者**：萩原顧問弁護士

１．議長について

この理事会では、会長が議案第１号の利害関係人であり出席できないため、定款に基づき蛭田筆頭副会長が議長に推薦され異議なく認められた。

２．議事について

議案第１号　理事の法的責任に関する検討結果の報告

古屋監事が、役員の法的責任に関する報告書（以下「本報告書」）の次の留意点について説明した。

- 本報告書は全ての取り扱い方針が決定し、公にできるまで非公開を厳守すること。
- 本報告書はできる限り早く正会員に説明することを趣旨に、時間短縮のため赤字検証報告書を基に作成している。時間をかければより詳細にはできるが、現時点では内容を満たしているものと判断してこの理事会に報告した。

さらに、顧問弁護士から報告書の全体について、配布資料を基に概略説明した。

- 利害関係人の法的責任（善管注意義務違反）を認定したこと。
- 競技会実施の損害額に絞り、適切な方法で実施した場合との差額で損害額を算出した
こと、など

その後、報告内容について質疑応答と意見交換がされ、次の３つの採決が行われた。

１　本報告書を理事会として受理すること。
賛成21名、反対０名、棄権０名
２　本報告書にある利害関係の法的責任を理事会として認定すること。
賛成20名、反対０名、棄権０名（小高理事退室）。
３　本報告書にある損害金額を理事会として認定すること。
賛成13名、反対６名（古賀・町田・栗田常務理事、中島・畑中・島田理事）、棄権１名（西谷理事）。

その後、早急に臨時総会を開催し、この内容及び対処方針を正会員に報告することが必要と協議され、来る４月14日（日）を仮予定とする案が出された。正式には３月14日の定例理事会で決定することとなった。

また、法的責任を問われている利害関係人６名との面談は、蛭田筆頭副会長及び飛松副会長の２名が行うことで了承された。

以　上

令和６年３月５日　　記録　赤尾 浩一

JMSCA

令和５年度 第17回 ハイブリッド理事会報告

○**日　時**：令和６年３月14日（木）
14：00―19：10
○**場　所**：JSOSビル３Ｆ会議室３と
Webのハイブリッド会議
○**出席者**：丸会長、蛭田・飛松・吉田・山本各副会長、小野寺専務理事、古賀・赤尾・町田・望月・安井・栗田（途中退席）・常務理事、佐藤・前田・野村・小髙・中橋・山口（途中から参加）・水村（途中から参加）・島田・西谷・畑中・樋口・中島・小田部・小日向各理事以上28名、古屋、佐久間各監事以上２名
○欠　席：濱田常務理事、平田・杉本理事
○同席者：萩原顧問弁護士

１．開　会

２．丸会長挨拶

ＢＪＣで、約1500人の観客が観戦し、千葉での全日本登山大会では38社のメーカーが参加するなど、予定した事業が盛況に終わり、皆様のご協力に感謝します。一方で、中央競技団体のダイバーシティー推進状況で、女性理事の平均割合が平均30％となり、外部理事の割合も増加してきており、上部団体の動きも注視していかなければならない。先般訪問した中国、四国のブロック大会でも、女性の理事の登用を、ぜひ前向きに考えて頂きたいという話をした。本日もよろしくお願いします。

３．会議成立状況報告

理事数29名中28名出席、監事数２名中２名出席（定款第33条、定足数＝15名（１／２以上））

４．議長選出

丸会長が議長を務める。（定款第32条）

５．議事録署名人

会長及び監事（定款第34条）

６．議　題（注．審議順に記載）

議案第１号　議事録の承認について

令和５年度第14回、15回理事会議事録、全国理事長会議議事録の承認について（事前送付済）、異議なく承認された。

議案第２号　令和６年度の展望、事業計画について

小野寺専務理事が配布資料を基に説明し、その後採決に移り、以下の通り承認された。

賛成22名、反対０名、棄権０名。

議案第３号　令和６年度の予算について

望月常務理事が画面を基に説明した。

全体で、４億4,200万円（内訳：ＳＣ部27,400万円、登山部：4,200万円、独立：4,300万円、管理費：8,200万円）となる。

その後質疑応答の後に、以下の３つの条件を付したうえで、採決を取り、承認された。

ａ．補助金等が決定されたら、速やかに補正予算を組む。
ｂ．管理費の内訳は、財務委員会と事務局で詳細を確定する。
ｃ．上記詳細ｂ　は、財務委員会と事務局で確定後、理事会メンバーに伝達する。

賛成22名、反対０名、棄権１名（古賀常務理事）。（山口理事、水村理事は審議に参加せず）。

議案第４号　利益相反ポリシー
議案第５号　危機管理について

配布資料を基に、山口理事が説明した後、法人名が公益財団法人になっているので、公益社団法人への変更が必要、ポリシーとあるが、規程ではないのか、等の意見が出された後、今回は決議をとることが保留となった。

議案第６号　UAAA30周年記念総会計画について（途中報告）

蛭田副会長が、現状の報告をした。

議案第７号　基金の状況について

小野寺専務理事が、画面に現状の募集状況（合計2110万円）を示し、その後以下の採決を取った。

採決１．

申込者全員に対して、申込金額全額を受ける旨の判断をすることについて、以下のように異議なく承認された。

賛成24名、反対０名、棄権０名。

しかしながら、現状の金額だけでは、債務超過となることが予想されるため、さらに、追加で以下の採決を取った。

採決２．

現状で予想される債務超過を少しでも減らすために、基金増額依頼等の更なる対応（最終締め切り日を、３月29日14：00通帳計上までとし、新たな基金募集者への割当金額を、申込金全額とする場合には、理事会承認を不要とすること。）をとるかどうかについて採決を取り、以下のように承認された。

賛成18名、反対４名（古賀・栗田・望月常務理事、中島理事）、棄権１名（飛松副会長）（栗田常務理事退席）。

議案第８号　西尾レントオールの契約と覚書について

町田常務理事が配布資料を基に説明し、以下のように異議なく承認された。

賛成23名、反対０名、棄権０名。

議案第９号　ＳＣ競技規程の変更について

中橋常務理事が配布資料を基に説明した。

ＩＦからの変更に応じて、選手の状態の確認時、競技会専属医師および医療担当者の責任が変更することについて質疑応答があったが、医科学委員会で、慎重に検討したほうが良いとの意見が出、今回の採決は保留となった。

議案第７号　業務委託契約について（４月１日から）

赤尾事務局長が、配布資料を基に説明した。

契約自体は１年だが、３か月単位で業務委託料金を見直しする。

当契約書案について採決を取り、以下のように否決された。

賛成９名、反対13名（蛭田・吉田・飛松・古賀・町田・栗田・安井・望月常務理事、佐藤・島田・小髙、中橋、樋口理事）。

しかし、契約書の契約期間を３か月、契約更新前の１か月前に、継続可否判断とする内容が提案された。その内容をうけて、小野寺専務理事、赤尾事務局長で契約内容を変更し、常務理事会に最終提案と、最終判断をすることになった。

議案第11号　ＳＣユースリード／ボルダー選考基準について

西谷理事が配布資料を基に、前年度と変更はないことを説明し、異議なく承認された。

賛成22名、反対０名、棄権０名（小日向理事退席）。

７．報　告

議案第１号　月次報告、キャッシュフロー

望月常務理事が画面から説明した。未払い7,000万円、３月支出5,400万円、年間で５億6,400万円の支出となり、収入５億600万円で、差し引き5,800万円の赤字の見込み。3,260万円債務超過見込み。キャッシュフロー上、５月までは、問題ないことを確認した。

議案第２号　全日大会千葉大会　結果報告について

小野寺専務理事が、配布資料を基に説明し、JMSCA費用負担が140万円を予定していたが100万円ですんだことを伝達した。

議案第３号　公認大会承認について

小野寺専務理事が、常務理事会で配布資料の内容で承認されたことを伝達した。

議案第４号　スキーモ執行伺いについて

小野寺専務理事が、常務理事会で配布資料の内容で承認されたことを伝達した。

８．その他

１．蛭田副会長からの緊急動議について

前回の臨時理事会の結果をうけて、４月14日（日）10：00－14：00ぐらいで臨時総会を行うことについて提案された。議事（案）としては、以下の内容。

――役員の責任問題

対象となる役員と、対象者と交渉した結果の中間報告の説明

――財政再建策の状況報告

その後採決され、以下のように承認された。

賛成18名、反対２名（丸会長、飛松副会長）、棄権１名（小髙理事）。

当日の進め方は、４/11の定時理事会で協議する。

２．丸会長が、３月26日に、前述臨時総会の協議内容を共有、確認するために、臨時常務理事会を行ってはどうかという提案をしたが、内容として財政再建の詳細を説明できるようにした方がよいとされ、財政再建委員会設立の提案がされた。

＊吉田副会長が全体とりまとめを行い、参加メンバーの候補を決めるとともに、招集日を決めることとなった。

以　上

令和６年３月14日　　記録　赤尾 浩一

かすみちゃんのハイキング日記」

表紙のことば

塔ノ岳は、頂上から丹沢の峰々・富士山、晴れていればアルプスの峰々まで眺めることができる丹沢を代表する山です。登山者なら多くの人が知る大倉尾根の目的地であり標高1491メートルの頂上までの標高差1200メートルは、登山の体力試しコースです。4月の第3日曜日マメザクラの咲くころ山開きが行われ、大倉尾根と表尾根からの隊が頂上で鍵の交換を行います。

神奈川県山岳連盟　広報委員長　小宮邦俊

編集後記

オリンピックが近づきクライミングが盛り上がっています。パリオリンピックの日本代表に内定しているのは、楢﨑智亜選手、高校3年生の安楽宙斗選手や大学生の森秋彩選手です。他に選ばれる選手は誰になるのか気になります。

JMSCAの丸誠一郎会長が2024年5月31日をもって代表理事を辞任する事になりました。令和3年度から3年間の就任お疲れさまでした。

そして新代表理事の選出が行われます。JMSCAの赤字問題など色々解決すべき事が多くあります。こちらも誰になるのか気になります。

（松本光顕）

登山月報　第 662 号

定　価　110 円（送料別）
予約年間　1,300 円（送料共）
（毎月 1 回 15 日発行）
発行日　令和 6 年 5 月15日
発行者　東京都新宿区霞ヶ丘町 4 番 2 号
Japan Sport Olympic Square 807
公益社団法人
日本山岳・スポーツクライミング協会
電　話　03－5843－1631
F A X　03－5843－1635

山岳雑誌 岳人
山と人、時代をつなぐ「岳人（がくじん）」

6月号 発売中

【特集】大雪山
モンベルのウェブサイト
全国のモンベルストアや書店にて発売中！
毎月15日発売　価格1,100円（税込）

▶年間購読が断然おトクに！
年間購読通常特典　購読割引　送料無料　限定品プレゼント
さらに モンベルクラブ会員さまには モンベルポイント 5,000P プレゼント！
モンベルクラブ会員さまで現在購読中の方は、次回継続時に5,000Pをプレゼントします。

年間購読特典
岳人コンパクトフォームパッド
手軽に携行できる軽量コンパクトなパッドです。
限定デザイン
岳人カード
全国2,000ヵ所以上でご優待！
全国の温泉や山小屋など提携施設でさまざまなご優待が受けられるカードです。

年間購読のお申し込みはこちらから！
https://www.gakujin.jp/
全国のモンベルストアでも受付中！
お問い合わせ モンベルポスト
フリーコール 0120-982-682／TEL 06-6538-5797
※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

SDGsで、未来をつなぐ

三井住友海上は、安心と安全の提供を通じて、持続可能な社会の実現に取り組みます

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

SDGs（Sustainable Development Goals）とは

2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に掲げられた包括的で持続可能な社会の構築を目指す「持続可能な開発目標」のことです。

持続可能な地球環境

関連する主なSDGs	主な取組
	・再生可能エネルギーの普及支援 ・自然災害リスクモデルにもとづくコンサルティング

安心して暮らせる社会

関連する主なSDGs	主な取組
	・健康づくりの支援 ・先進技術を活用した利便性の高いお客さま対応

活力のある経済活動

関連する主なSDGs	主な取組
	・次世代モビリティ社会への対応（自動運転車等） ・災害に強いまちづくりの支援

立ちどまらない保険。

MS&AD 三井住友海上

三井住友海上は、レジリエントでサステナブルな社会※をめざします。

※外部環境にしなやかに対応する、持続可能な社会

日山協山岳共済会のご案内

安全登山は登山者の努め、山岳保険は義務。

ご自身のために、ご家族のために。

日山協山岳共済会とは、

日山協山岳共済会とは公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会（JMSCA）とアライアンスを組み、安全登山の指導・普及を図り、山や自然が好きな人たちのための互助と自立を目指す仲間の集まりです。山岳共済会は、日本の山岳遭難・捜索保険の草分けで、5万人の会員を持つ最大級の山岳共済です。年齢・既往症に関係なくどなたでも入会できます。

2022年 山岳遭難の概況

警察庁生活安全局生活安全企画課
（ 2023年6月9日 ）

発生件数	3,015件	（前年対比 380件増）
遭難者数	3,508人	（前年対比 431人増）
死者・行方不明者	327人	（前年対比 44人増）

JMSCA 2024年版 日山協山岳共済会のしおり

WEBからもお申込みいただけます（ www.sangakukyousai.jp ）